

第5回 ESDパワーアップ交流会 参加報告

奈良市立都跡小学校 山方 貴順

平成28年1月28日に江東区立八名川小学校にて開催された、パワーアップ交流会に参加した。全体会、分科会、講演、交流会の大きく4つから構成されていた。



ユネスコスクールのプレートが見える、八名川小の玄関

【全体会にて】

交流会の最初には、手島校長先生の挨拶があった。非常に熱のこもった話であった。その中でも、学力に関する話が印象的であった。平成22年度、全国学力学習状況調査における算数B問題の八名川小の平均は、全国平均を100ポイントとすると、104.87ポイントであったそうである。全国平均を少し上回る程度である。しかし、手島校長先生が赴任され、ESDを進めていく中で、学力は向上していった。平成28年度は、123.09ポイントであった。6年間で18ポイントも向上したことになる。たとえ、指定を受けて学力向上を目指している学校であっても、これほどの向上は、滅多にないであろう。また、指定を受けて学力を伸ばしている小学校の児童や教職員は、望んで学力向上に取り組んでいるのだろうか。その一方で、八名川小学校のESDに関しては、多くの児童や教職員は望んで取り組んでいるそうである。

手島校長先生のお話から、ESDは、子どもの学びに火をつける、そして学力を高め得る学びとして、本校でもさらに活性化させていきたいと感じさせられた。

【分科会にて】

次に、3つの分科会に分かれての実践発表があった。私は、A分科会での実践発表をした。タイトルは「広島お好み焼きから原爆が見えるー広島お好み焼きから始める修学旅行事前学習ー」である。提案の要点は次の通りである。

○広島お好み焼きと、関西風お好み焼きは、大きく3つの違いがある。違いを追究していくと、そのどれもが戦争につながる。

①材料：広島お好み焼きは小麦粉が少なく、野菜が多い。これは、戦後の食料難に由来する。戦後、地方都市である広島では、小麦粉は入手困難であった。また、肉や卵等は高価であったため、野菜を多く入れた。なお、肉等がお好み焼きに入れられたのは、後になってからである。

②店名：広島お好み焼き専門店の店名は「○○ちゃん」が多い。これは、原爆による死者や行方不明者が多かったことに由来するというのが一つの説である。行方不明になった者や、その家族のニックネームを店名にし、奇跡の再会を願った

のである。もう一つの説は、戦後の未亡人が生業としてお好み焼き屋を開店させ、その女性店主のニックネームを店名にしたというものである。

- ③店内：関西のお好み焼き屋のテーブルは4名がけで、その中央に鉄板があるのが一般的である。一方広島では、店内中央に大きな1枚の鉄板があるのが一般的である。この鉄板は、店主の調理の場であると同時に、客の皿の役目も果たす。これは、戦後の物資難、また上水道の未整備に由来する。未亡人となった女性が家の一部をお好み焼き屋とすることが多かったが、客にお好み焼きを焼かせるだけの十分なスペースの確保ができなかったことと、客の皿の用意が困難であったこと、さらには、お好み焼き屋を営んでいた屋台は、上水道の整備が不十分であったことが見えてくる。

○ESD教材は身近にあり、難しいものではない。

○教材開発をするなら、足で「稼ぐのが良い」

質疑応答では、3人の先生方から次の意見が出された。

- ①広島市から来た。広島の小学生も同様に、お好み焼きと原爆はつながっていることを学習している。非常に興味深い実践であった。

- ②自分も追試してみようと思う。ところで、子どもの具体的な変容はあったのか。

→実は私は、教材開発以降、6年生を担当していません。しかし、指導案を複数の先生にお渡しし、実践してもらうことができました。その中で、いわゆる「やんちゃ」と言われるような児童でさえも学習内容はよく覚えていたということを知らせていただきました。

- ③広島焼きと原爆や戦争は、一見距離があるように感じる。どうやってそのような視点を得たのか。

→常にアンテナを張って、「つながり」を意識しているのが大事だと思います。

※指導案は、本ホームページ内でも閲覧可能である。URLは以下の通りである。

<http://jisedai.nara>

[edu.ac.jp/open/esd/?action=cabinet_action_main_download&block_id=54&room_id=1&cabinet_id=6&file_id=53&upload_id=87](http://jisedai.nara.edu.ac.jp/open/esd/?action=cabinet_action_main_download&block_id=54&room_id=1&cabinet_id=6&file_id=53&upload_id=87)

【講演にて】

目白大学名誉教授で、金沢学院大学教授の多田孝志先生の講演であった。90分間をあっという間に感じるほどの情報量であった。中でも印象に残っていることは、「深く考える」ということである。

多田先生は、次期学習指導要領で打ち出されているアクティブ・ラーニングの3つの学び（深い学び・対話的な学び・主体的な学び）では浅いとおっしゃっていた。乗り越えるためには、深く考えることのできる児童を育てることが重要であり、深く考えることができると、学びが楽しくなるとおっしゃっていた。また、21世紀型スキルについても言及されておられたが、ポイントは深く考えることと、行動化であるそうである。

講演の後半には、「教育は政治、経済を変革する力をもつ」「他者への過剰な怯え（に屈しなくともよい）」「いかなるときも精神的自由をもち歩む」という言葉を紹介された。教師という職に誇りをもち、日々の教育活動に取り組んでいきたい。



全体会は、座席がほぼ埋まるほどの盛況ぶりであった。

【交流会にて】

場所を会議室に移しての、自由参加の交流会があり、ここにも参加した。八名川小の、教職員やPTAの方が中心となって、カレーパンと、温かいお茶で参加者をもてなしてくださった。そこでは、私の発表を聞いたPTAの方や先生が感想を伝えてくださったり、他校の先生方と意見交換をしたりと、有意義な時間を過ごすことができた。その中で印象的であったのは、「本校の教職員は仲が良い」「手島校長先生の人柄で……」「手島校長先生のリーダーシップは素晴らしい」という、八名川小の先生の言葉である。校長先生の、強い、そして適切なリーダーシップのもと、八名川小の先生方は勤務されていることを実感した。

最後の締めの挨拶にて手島校長先生は、「ESDを推し進めていくキーワードは『未来型学力』だ」ということをおっしゃった。最後に、手島校長先生と固い握手を交わし、八名川小学校を後にした。

「未来型学力」を胸に留めて、今後も引き続きESD研究に、またESDの普及に、邁進していきたいと強く思うことのできたパワーアップ交流会であった。